

2014/2015 シーズンフリースタイル部春季技術運営委員会議事録

日付:6月20日(土)11時00分~17時30分、6月21日(日)9時00分~16時30分

会場:味の素ナショナルトレーニングセンター研修室5(6月20日)、研修室4(6月21日)

出席者(敬称略):高野 弥寸志、荒瀬 裕基、斗澤 由香子、塩津 龍一、横山 敏弘、永井 祐二、尾形 修、山口 茂樹、中野 銀次郎、長壁 宏、長島 康敬

欠席者(敬称略):田中 千香子、池原 明

代理人オブザーバー(敬称略):長井 優

1. 開会

荒瀬技術運営委員長の挨拶

2. 部長挨拶

今回は2日間で開催することになりました。2日間の意味はたくさんの課題をなんとか2日間で解決点まで到達したいというところにあります。課題は少なくありませんが、率直な意見を頂いて是非みなさんの力を合わせてフリースタイルの未来を討議して頂ければと思います。2日間よろしくお祈いします。

3. 議長、書記、議事録署名人選出

議長は荒瀬技術運営委員長(競技本部規定第4条に基づいて技術運営委員会の議長を担当する)

議事録は長島セクレタリー 承認

議事録署名人は長壁氏 承認

4. 資料の確認

5. 報告事項

(1) 強化関連(斗澤ヘッドコーチ)

● シーズン総括

メダルサイクルにあわせた4年周期の強化計画において、本年は5種目の現状を把握して戦略立案に向けての材料獲得のため、国内外におけるフリースタイル競技の現状把握を実施した。

具体的には国内外の競技会および合宿の視察と選手・コーチのヒアリングを実施した。

➤ MO

コーチ4名、トレーナー1名のチーム編成で、ワールドカップで4回メダルを獲得した。

雪上合宿、陸上合宿のほか、ウォータージャンプ合宿、体力強化・測定合宿、選手のためにルール講習会、チームビルディング講習、セルフケア学習等を実施した。

城コーチがモーグルアドバイザーグループ(長はアメリカ:ガース氏)に参加し、日本の意見を発信した。

➤ SS

ジュニア世界選手権大会で桐山選手が優勝した。

国内ではFISレースを3戦シリーズ戦で開催し、10代の若年層の人口が増えた。

海外のジャンプ台のサイズが大きい、それをトレーニングする国内環境が整備されていない。

海外では選手人口は多い

➤ HP

小野塚選手が3度表彰台に立ち、ワールドカップ総合優勝を果たした。

小野塚選手に続く女子選手の鈴木選手、渡部選手が成長している。

課題は国内で競技会が実施されないため、海外での強化頼みとなっていること。

➤ SS/HP 共通

雪上合宿では、バグジャンプを使つてのトレーニング合宿を実施し、成果が見られた。

トランポリン合宿、体力測定、ドーピング教育、セルフケア教育を実施した。

課題は第一に競技人口が少ないことに端を発する、発掘、育成、強化が混在し分けて指導できない、チームとして活動できないことが挙げられる。次いでトレーニング環境が整備されていないことである。

➤ SX

計5名のスタッフで、雪上2回、陸上2回の合宿を実施した。

ワールドカップは梅原玲奈選手が外国人コーチを雇い、一人で参戦している。(全額自費)

ユニバーシアード、ジュニア世界選手権に選手を派遣したが、結果は芳しくなかった。
国内競技会は全日本選手権1戦のみの開催であるが、一般のレースは実施され人気もある。
課題は3つある。アルペン競技者のクロス競技力が高いことが証明されていることから、アルペン競技との連携、国内競技会の整備、トレーニング環境の整備である。

- AE
ウォータージャンプ合宿を実施したが、国内に3回転をトレーニングできる環境がないため、2回転のみのトレーニングとなる。
競技者が少ない。
美深町のタレント発掘事業との連携は、今後、北海道ブロック・加盟団体を中心に進めて行く必要がある。
- 選手育成強化方針についてプレゼン資料で再度確認した
- FS部一貫指導システム、選手長期育成計画についてプレゼン資料で再度確認した
- 強化指定選手選考基準について概要報告
- 5月9日(土)開催の強化委員会についての概要報告
- 選手育成強化方針、FS部一貫指導システム、選手長期育成計画についてプレゼン資料で確認した
- 各ブロックにおけるFS5種目の育成・強化の状況を報告した。
- 強化委員メンバーは全種目をカバーする地域の代表であることを確認した
- 5月9日(土)～5月10日(日)開催の、コーチ会議についての概要報告
 - フリースタイル育成強化方針、選手育成強化の構造についての確認、一貫指導プログラムについての項目・内容を確認した。
 - 2014/2015振り返り課題、確認事項・部の強化戦略を確認した。
 - コーチが理解すべきアンチドーピングプログラムを学習した(鈴木氏)。
 - 一貫指導システムの構築と競技者育成プログラム作成のための指針について、各種目で検討した。
 - スキー選手に多い怪我および予防、および情報医学の活用について学習した(石毛氏)。
 - その他プロジェクトとして情報発信ツールの活用方法について検討した。
- その他
 - NTC、JISSの利用について、SAJ FS部として利用する際の利用案内・利用規程を、今会議で報告した。

(2) FIS 関連(荒瀬代理報告)

- FIS 春季委員会の概要を報告 主なトピックスとしては以下の通り。
 - 田中氏が7月15日(水)までに日本語訳に取り組みその後公開することのこと。
 - FIS ポイント発行予定が承認された
 - コンチネンタルカップにMO、AE、SXの国別表彰を追加することが承認された
 - MOの第2エアバンプの位置について、DM競技でフィニッシュライン近くにも設定することができるように、コース規格を追加変更することが承認された
 - DMのタイプブレーク解決方法について承認された
 - WCモーグルのドロウについては変更せずに現状維持
 - MOスタートの合図後すぐにスタートすること(具体的な秒数は未定)
 - 7人ジャッジの時はターンのベース点とディダクション、それぞれの上下カットしたものを採用することが承認された
 - グラブの難度を上げてエアのバラエティが増えるように奨励することが承認された
 - AEではWCのビデオコントローラーの有意性が認められた。
 - ジャッジの各採点要素ごとに最高点と最低点をカットした点数を得点として採用することが承認された
 - アドバイザリーグループの役割について確認した(所属国の利益だけでなくスポーツ全体を見ながらエキスパートの能力を発揮して欲しい)。※国内においてはSAJ各専門委員にも同様の事が求められる。
 - FS&SBコーディネーショングループではFISポイント、TD教育のための必要事項、競技会のコース規格などについて協議、調整し提案している
 - 2021年世界選手権の立候補は10月1日まで×切を延長している
- 田中氏より、7月にFISのジャッジプロクター研修会に参加していか技術運営委員会に同意を得たいとの連絡あり。
→秋季にプロクター研修会の内容を報告すること前提に全会一致で承認した。

- FIS ジャッジブロッカークリニック、FIS ジャッジクリニック予定
 - 11月にジャッジクリニックを開催予定
- FIS TD クリニック予定
 - 10月23日(金)～25(日)にTDクリニック開催予定

(3) 運営関連

- ◆ 大会運営小委員会大会(塩津委員長)
 - 2014/2015大会開催実績(各大会における特記事項報告を含む)
 - 新大会運営マニュアル作成進捗状況
公認申請までの部分を石井氏が担当
開催要項から先の部分を三井氏が担当
秋までには発表できるようにしたい
 - 大会運営小委員会活動報告
委員会メンバーの中に連絡が取れない人がいる。
積極的な発言も着信確認もなく、委員長任せになってしまうことが多いので、各ブロックからの委員会メンバーの推薦について再考を求めたい
 - その他
- ◆ 審判計算小委員会(横山委員長)
 - FIS ジャッジ研修会兼 SAJ フリースタイル A 級審判員研修会について報告
 - SAJ フリースタイル審判員研修会について報告
 - SAJ フリースタイル審判員検定会について報告
検定会 エアリアル種目 B 級 窪田 光雄(岐阜県)

検定会 モーグル種目 A 級合格 松本 英孝(埼玉県)
A 級合格 伊藤 強(愛知県)
A 級合格 熊谷 成弘(東京都)
A 級合格 石井 浩(北海道)
A 級合格 宮崎 潤(東京都)
B 級合格 仙道 陽輔(秋田県)
B 級合格 松原 友一(秋田県)
B 級合格 佐藤 浩樹(秋田県)
- 2014/2015 シーズン各大会ジャッジ稼働状況について報告
- ヘッドジャッジレポート及び所感まとめについて報告
HJ レポートにも 1～5 までの評価基準があるといいのではないかと、大会の質・ジャッジングの質のためにも評価基準があるといいのではないかと
TD レポートについても簡素化されているので再考が必要ではないかと
評価基準を Google フォームで纏める手法もあっていいのではないかと
HJ レポートは記載内容を検討する。HJ レポート所感について秋の委員会までに取りまとめた次期シーズンに有効利用できるようにする。
- 審判計算小委員会活動報告
審判については配置に苦慮したところがあった。
計算講習会があったので新ルールでのリザルト作成関連はなんとか乗り切れた。
小委員会としての活動できていなかったが、計算担当についての普及活動はできた。
- その他
 - ・伊藤 創氏(新潟県)ご本人より審判計算小委員会の辞任の申し出あり
 - ・審判計算小委員会の追加したい委員を希望
当委員会は専門性と経験値が必要なため現行の委員と合わせて藤沢氏(宮城県)、山之内氏(新潟県)、小倉氏(愛知県)、小林氏(長野県)を新たに追加したい、という希望を提案する。
- ◆ ルール・公認・施設小委員会(永井委員長)
 - 公認コース一覧(新規公認施設)について報告
 - 公認大会カレンダーについて報告
 - 公認審判員合格者、公認技術代表合格者について報告

- TD は推薦なし(推薦であげた2名は間違いなので削除済み)
- ジュニア選手権の年齢制限、エア難度制限について現状のままでよい
- 記録計算系の資格、公認会の取り組みについて
- ルール・公認・施設小委員会活動報告
尾形氏とのやりとりのみしかできていなく、委員会メンバーでは特に発信して討議したものはないが、以下のような意見が出た。
SB・HP・SS は SS 部と HP 部を作ったらどうか
SB/FS の TD 教育を実施するのはどうか
- ◆ TD ワーキンググループ(荒瀬氏が代理で報告)
 - SAJ フリースタイル TD 研修会、検定会(FIS・TD 検定会)について報告
 - 昨秋、FISにおけるTD資格者の取り扱いが急遽変更された為、国内におけるFISレースの開催危機が露呈。急遽、国内FISレースにおいて荒瀬が検定委員となり5名の実地を実施した。
 - 実地結果は、4月中旬にFIS事務局キャサリン女史へ荒瀬から所定書式で送付報告済み。「クリニック、実地」の順が「実地、クリニック」でも合格できるように検討する(FIS・TDWG 長のイアン・マッケイ氏コメントを田中委員経由で報告受ける。)
 - 2014/2015 シーズン各大会 TD 稼働状況について報告
 - TD ワーキンググループ活動報告
TD 規定変更について、TD アサインなどメールとのやりとりで意見交換をした。
- ◆ クロスキャットより
SS の SAJ ポイント計算について
SAJ 公認大会がないのでポイントが付かない。

6. 審議事項

- (1) SAJ 部内におけるガバナンスの透明化、機能整理(斗澤氏)
情報の配信先についてマナー・ルールは守ること
電子媒体による情報の扱いについて他の NF での情報伝達のやり方については斗澤氏が調査する。
FS 部内の伝達方法については荒瀬氏・長島氏で対応を検討する。
- (2) 指導者養成委員会(仮称)の設立について(斗澤氏)
理事会で承認して正式な組織にしたい(委員会メンバー数 2 名程度)
FS 部内の指導者養成委員会(仮称)の設立について承認を得たい。
→本件は承認する

10 月実施めどにプログラムを進めたいので審議方法はメールで 7 月 31 日(金)までに技術運営委員会内(13 名)で審議し 8 月の理事会で承認を得られるように斗澤氏主導で動くこととする。
強化担当コーチは受講すめる。

今後は規約を整備し、資格化する。
- (3) モーグル種目強化指定選手 選考対象競技会の提案(斗澤氏)
強化側の方針として審議で承認を得るまでもないが、平均的なオリンピックコース(コース長 250m、平均斜度 28°)プロフィールを持っている且つコーチの意見も加味した国内コースとしたい。
主にバンケイ、リステル、秋田・田沢湖を選考対象コースとしたいと考えているが、決定および公表時期は 11 月頃とする。
強化側としてはジャッジメンバーについてもクオリティの高いメンバー調整をお願いしたい。
- (4) 2017 シーズン以降の全日本選手権について
FS 部の全日本選手権の委託金の総額は変わらない事を前提とすると、SS/HP の全日本選手権を開催する場合は、既存の種目から融通・流用する必要がある。
2017 シーズン以降は SS の全日本選手権開催に伴い SX/WJ を除く各種目から 20%程度の減額とする。ただし全額 SS でなく一部 SX にも流用する。

HPについては2017シーズン開催を予定しているが2016シーズンはFISレース開催を目指して行く。大会運営小委員会とルール・公認・施設小委員会で検討を進めて調整する。(バンケイ・高鷲)

2017シーズンは予定であり開催候補県連は減額を了承した上で開催立候補して欲しい。

現時点では2017シーズン全日本開催立候補は以下の通り。⇒承認

WJは長野(さのさか)

AEは北海道(美深)

MO/DMは富山(たいら)

Jrは北海道(バンケイ)

SXは長野

SSは群馬(尾瀬戸倉)※SSのみ暫定案

※2016シーズンにSS/HP開催する方向で検討していたが2年前に評議委員会から理事会承認するという全日本スキー選手権開催規定に反するため2016シーズンの開催は断念せざるを得ない。

(5) 小委員会のメンバーの推薦条件について

委員会としての責任を全うできないので大会運営小委員会として各メンバーは連絡を取れるようにして欲しい。

議長(委員長)より

推薦するのは改選の時期に進めるとして現在は各小委員会を機能させる事をまずはお願いしたい。審判計算小委員会は、本来のメンバーで委員会の業務が全く進められていない現状下で、追加の推薦はあり得ない。各ブロックから推薦して出て来ていただいている委員にも整合性が取れない。

地域から挙げてもらった人を動かして運営し、それでも動いてもらえない場合には来季の改選の時期に委員の適正条件を挙げて頂き、推薦する方向に進めたいが、よいか。異議の声なし→承認。

(6) 大会ランクの見直し及び公認大会数、日程の調整及び大会のカテゴリー別、ブロック別、日程別の検討
大会運営小委員会が作成した提案事項(大会開催を承認するための諸条件を記載した文書)を、各ブロック内に持ち帰り、付帯条件について討議して頂き、秋季技術運営委員会までに問題点を上げること。
協議検討の際、反対意見については何が反対か、その対案は何かも出して欲しい。

何をもちえてエントリー数が少ないかは人によって捉え方が違うため、実際にどう変化したかを知りたい。(斗澤氏)

→各大会の数年分の参加人数を調査する(長島氏)

(7) 有資格者のアサインについて

ジャッジのアサインは大会運営小委員会の推薦に基づき、大会運営小委員会と競技会組織委員会との協議にて選考し技術運営委員会が決定する。各ブロックからの要望事項を充分熟慮・配慮した上で今後は規定どおり大会運営小委員会がアサイン業務を進める。※大会OCと協議してアサインを進めていくのはジャッジ規定細則による。TDは大会運営小委員会の推薦に基づき技術運営委員会で任命する、といった従来どおりのFIS準拠に基づくアサイン決定方法で進める。

(8) 加盟団体主催 審判員研修会について規定における解釈について

本来、昨秋から今春に掛けて審判計算小委員会で進める施策であった。協議不十分。

審判計算小委員会で、実情に合わせて具体的に規約の改定案を作成する。その後技術運営委員会で承認できるようにする。

※現状の規約だと加盟団体主催の研修会はSAJ主催の研修会とは同等と見なされないということ。

まずは「規約改定案を現状に則したものにすか」、「解釈によって結果的に間違っ運用されてきた内容を今一度改めて規約規定に沿った運用方法に戻す」か、などを含め審判計算小委員会で協議検討するのも良い。

審判計算小委員会で揉んだ規約改定案を8月いっぱいまでに技術運営委員会メンバーで、オンライン上で討議し、承認できるようにすること。9月の理事会で承認できるようにするには8月中に各加盟団体主催の研修会申請を部として受け付ける仕組みを構築しなくてはならない。現状では未構築の状態。

※加盟団体主催の研修会を有資格者更新のための研修会のみならず、検定会の受検資格にも適用させる『SAJ 主催と「同格」の研修会』にしようとするのであれば、「実施 7 日前に審判計算小委員会へ申請」のような簡易な手続きでは済まされず、他の部と同様に当該小委員会(審判計算小委員会)で受付⇒技術運営委員会で承認⇒理事会承認の手順を踏む事が公認資格取得への義務的な手続きとなるので、申請方法も見直すべきではないか。

(9) 2015 秋季以降の事業予定

- ① AE SAJ/FS 審判員検定会・研修会 → 10 月 4 日(日) 長野県 さのさか WJ にて
- ② FIS/SAJ FS/TD 研修会 → 10 月 23 日(金) ~25 日(日)
- ③ FIS/SAJ A 級審判員研修会 → 10 月 30 日(金)~11 月 1 日(日)
- ④ SAJ/FS 審判員検定会・研修会(A/B) → 11 月 2 日(月)~11 月 3 日(火)
- ⑤ SAJ/FS 審判員検定会・研修会(MO)雪上 → 秋に決定
- ⑥ SAJ/FS TD 検定会・研修会 雪上 → 秋に決定
- ⑦ 秋季技術運営委員会 → 11 月 15 日(日)
- ⑧ 審判計算小委員会 → 11 月 14 日(土) 暫定予定
- ⑨ コーチ会議、メディカル → 11 月 7 日(土)
- ⑩ 強化委員会 → 11 月 8 日(日)

(10) リザルトシステムについて

MO のリザルトシステムは SAJ の 1 コーデックスを 1 単位とし、開発保守・利用料として 1 コーデックスを税別 1 万円とする。

支払いは音響のように開発者へ直接支払うこととする。具体的な方法については審判計算小委員会が秋季技術運営委員会までにまとめて承認を得なければならない。※次シーズンの運用に間に合わなくなる。

大会運営小委員会のメンバーは各ブロック内の主催団体へ審議結果(2015-2016 シーズンの大会から 1 コーデックス税抜き 1 万円の負担をお願いする)だけでなくこれまでの経緯・経過を含めて説明の上、要請し、了解を得てもらうこと。

(11) 記録計算係の資格、公認化の取り組み

資格化せずに記録計算講習会受講者を記録計算係推薦者とする。

記録計算講習会の受講実績履歴などは審判計算小委員会で管理することとする。

記録計算係長は審判の資格を持っていない件は規約改正については大会運営小委員会が調査する。

(12) フリースタイルスキー公認技術代表規定、公認技術代表フリースタイルスキー部細則の改正について

- 公認技術代表資格取得方法の変更
→アシスタント TD 資格の削除
- 講習会、研修会の定義の明確化
→講習は受験、有資格者には研修会
- 運用実態に合わせて変更
→クリニックを研修会に変更(SAJ 上での変更)
- 表記を運用実態に合わせて変更
- FSS(フリースタイルスキー)表記を FS(フリースタイル)表記に変更する
- 今年の FIS/ICR 変更案では、TD 受験者の意味での Assistant TD は Education という表現に変更されているので、受験者としてのアシスタント TD 表記は TD 候補者に変更する

(13) 日本のジャッジプロクター・強化との連携について

本来、昨秋から今春に掛けて審判計算小委員会で進める施策であった。協議不十分。

秋の研修会までに FIS/A 資格者 4 人いるジャッジを複数人集めて具体的な施策を実施する方向ですめる。

(14) SAJ ポイント計算方法の見直しについて

見直しの理由・目的が不明確なので起案者の工藤氏に確認する。(横山氏)

この提案には大会カテゴリーと SAJ ポイント計算提案が混同しているため、SAJ ポイント計算について確認する(横山氏)

(15) MO/DM 種目公認大会出場資格規定の改良

大会カテゴリーの件か大会運営小委員会で対応・確認する。

シーズン特別枠についても合わせて検討・確認する。(横山)※情報共有は CC メールで配信する。

(16) FS 部マーケティング・普及・広報委員会の創設について

部内マーケティング委員会の設置は、まずはチーム成績があつて、周到な準備必要。(高野部長)

スポンサー側から来た場合はスポンサー規定に則り FS 部で活用できる。(塩津氏)

SAJ の中にはセールスキットなるものがある。利用してスポンサー様への展開ができる。(高野部長)

マーケティングにおいては部長のコメントどおり、組織編制が先行するのではなく成績ありきの流れが必要である。その上で技術運営各委員が周囲の関係各位へ働きかけ、協力や協賛を求めて行くような手法が現状では現実的である。(荒瀬氏)

(17) Big Air 種目の開催について

BA 種目は FIS の流れに従い都度考えることとしたい。

SB においては BA が正式種目であるので今後は FS に繋がると思う。

SS より BA の方が単発であるので取り組みやすい、今後に種目化されてもコーチは対応できる意識はある。(斗澤氏)

尾瀬戸倉 SS で本大会の前日に行っている。2017 年には開催される可能性高い。

FS 部として積極的に取り組んでいくこととする。

(18) 公認大会開催申請時期について

4 月末までの申請に限らず可能でもある。

期限外の申請は公認料が倍となるが、原則 4 月末をとり、柔軟な対応をしていく。

4 月末(早い時期)にわかることで早めの対応判断ができる。

変更申請は費用がかからないので、4 月末の期限で申請しておき事後変更する考え方もある。

FIS レースは申請後の変更など注意が必要である。

昨年秋の委員会では期限外の申請は認めないとしていたが、柔軟な対応もとる。※特に新種目について

(19) ジャッジ・TD のレベルの底上げ

バイアス・偏見を抑制するような研修内容を秋の研修会に向けて各担当小委員会は対策を取っていただきたい。

(20) 2015/2016 SAJ 公認競技大会の日程調整の提案

変更:

愛知県大会: 2 月 6~7 日(愛知県連事務局の申請間違いによる): 変更申請書 ⇒ SAJ 事務局

埼玉大会: 1 月 30 日

長野大会: 1 月 31 日

ばんけい MO 競技会: 1 月 16~17 日に変更

北海道選手権: 2 月 27~28 日に変更できないか

FS 部委員会にて秋田たざわ湖を当初通りの: 2 月 21~22 日

秋田たざわ湖の SAJ A 級を FIS 申請して FIS 大会にならないか?

→ FIS 大会となれば、翌週の WC 出場者の合宿を兼ねた大会参加が期待でき、相当レベルの高い大会となる。【秋田県として現在(6 月 20 日時点)は当初申請した 2 月 21~22 日から 2 月 6~7 日への変更を希望であるが FS 部の意向をもとに再度秋田県にて検討する】

3 月 10~12 日あたりが重複しているので調整して欲しい。

再度各ブロックで検討しメール等で確認していくこととする。

(21) NTC・JISS・アスリートビレッジ利用に関する諸注意(案)について

70~71 ページ(案)の確認していただき各委員から斗澤さんに返信する。

6 月末までに返信する。

以上、平成 27 年 6 月 20 日(土)21 日(日)開催の全日本スキー連盟フリースタイル部技術運営委員会の議事内容に相違ないことを証明し、以下の連名で承認する。

議長

フリースタイル部技術運営委員会委員長 荒瀬 裕基

書記担当

フリースタイル部セクレタリー 長島 康敬

議事録署名人

フリースタイル部技術運営委員会委員 長壁 宏